とかす力（八木重吉の詩を愛好する会会報）

☆　第　31　号
☆2024 年（令和 6 年）
9 月 20 日　発　行

（事務局及び会報）〒270-1406 千葉県白井市中 205 小林正継
Ｅメール　kmat27aiko@gmail.com　　携帯電話 09061674553

前号から半年以上が過ぎてしまいました。後半でお知らせしますが、今年の茶の花忌の実施について、いろいろ検討していましたので発行が遅れました。まずは今までの八木重吉関係のニュースを報告しておきます。

★ことばらんど（町田市民文学館）で「生誕 125 年八木重吉ミニ展示」

ことばらんどの 1 階に、八木重吉の自筆原稿の一部が展示されていました。重吉の字、自らの推敲による校正、言葉と言葉の空間の取り方、閉じたリボンの様子などわかり、多くの資料を記念館で見るのとは違って集中して見られたのが良かったと思いました。『八木重吉英文日記』も展示されていました。

合わせて 2 階では、「少女たちのお手紙文化１８９０－１９４０―変わらぬ想いは時を越えて―」と題された展示があり、その中に八木重吉のとみこさんへのラブレターのコーナーがありました。重吉の個性ある字と同時に現代の私たちには読みにくい崩し字を見て、田中清光さんが、よくぞ全集にまとめて下さったとその労苦を思いました。ラブレターコーナー以外は関係ないかと思いきや、時代が大正期を含んでいるので注目すると、当時の女性雑誌のコーナーがあり、そこに『少女世界』という名前を見つけた。英文日記で“The World of the Girl”と重吉が英文で書いている雑誌の日本語名を私は『少女の世界』と訳してしまったが、本の名前なら、漢字だけかもしれないとと翻訳の修正を考えている箇所だったので、まさに『少女世界』はぴたり、これだと思いました。しかも当時人気があったとするなら、本好きの重吉はこの本を妹のマスに贈ったのであると確信しました。

★星野富弘さん死去

事故で手足の自由を失い、口に筆をくわえて絵画や詩の創作活動を続けていた群馬県出身の星野富弘さんが、4 月 28 日、呼吸不全のため亡くなりました。78 歳でした。星野富弘さんは 1946 年（昭和 21 年）、現在の群馬県みどり市、旧東村で生まれました。群馬大学を卒業後、中学校の教員だった 20 代の時、部活動の指導中の事故で手足の自由を失いました。入院中に口に筆をくわえて文字や絵を書き始めたのをきっかけに創作活動をスタートさせ、一つの作品の中に絵と詩が盛り込まれた「詩画」と呼ばれる作品を生み出してきました。作品をまとめた「花の詩画展」は全国各地で開かれて話題となり、その後、ニューヨークやサンフランシスコなどでも作品展が開かれました。また、みどり市にある「富弘美術館」は開館からことしで 33 年目を迎え、これまでの入館者は 700 万人を超えています。「富弘美術館」によりますと、星野さんは 1 年ほど前まで創作活動を続けていたということですが、4 月 28 日、呼吸不全のため、みどり市内の病院で亡くなりました。

星野さんは、八木重吉の愛好者でもあり、「八木重吉への手紙―あなたの素朴な心の詩に支えられて―」というエッセイを書いています。その一部を引用しておきます。

> **背景　八木重吉様　天国におられるあなたに手紙を出すのは変でしょうか。しかし、私はあなたがどこにおられようと、どうしてもお礼を申し上げなければいられません。・・・（中略）・・・今、私はあなたの詩集をいつも側に置いています。そして高校時代、私に安らぎを下さったあなたの詩のように、誰にでもわかる言葉を使って詩を書こうと思っています。・・・（中略）・・・あなたの詩を読むと、あの頃痛いほど感じた、生きていることへのいとおしさが蘇ってきます。そして、こうして生かされていることを感謝せずにはいられません。生かされていることは、たとえようもない不思議な恵みです。文学とか芸術とか難しいことはわかりません。しかし、あなたの詩は、生きる勇気と喜びと安らぎを下さいました。あなたの詩は私にとって、「詩以上の詩」です。あなたが天国へ旅立たれたのは二十九歳。私はあなたより、もう随分長く生きています。長く生きるその分だけ、どこかが汚れていくようにも思いますが、あなたの残して下さった素朴な心の詩は、私の内で静かに燃え続け、これからも私を支えてくださることでしょう。神様のみもとで、あなたにお会いできますよう生きたいと思います。**

大正の終わりに書かれた八木重吉の詩が、戦後まもなく生まれた星野富弘さんの心を感動させ、大きな障害を

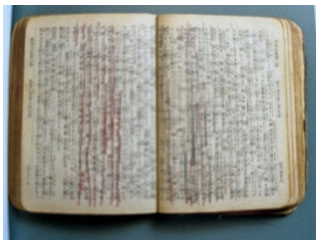
負った星野さんの心を支え続けたのです。星野さんは 2024 年 4 月 28 日に亡くなられましたが、約 110 年前の 1915 年 4 月 27 日、星野さんの生まれ故郷である、群馬県勢多郡東村（現：みどり市）を歩いていました。八木重吉が鎌倉師範学校の本科 3 年のことです。4 月の下旬、3 年生のクラスは、関東に修学旅行に来ていました。軍事訓練も兼ねていたような当時の修学旅行は、歩く部分が多いのです。重吉たちは、先ず妙義山登山をし、そこから渋川、伊香保、前橋、足利とめぐり、そこから北上して日光へ向かったのです。桐生の先から日光へ向かう幹線道路は現在の国道 122 号線で渡良瀬川沿いの道です。現在ダム湖である草木湖の途中に星野富弘美術館がありますが、国道に沿って草木湖の南側が神戸（ごうど）と呼ばれる地域で、星野さんの生まれたところです。この神戸を重吉は歩いて通っているのです。重吉はその頃から絵が好きになり旅行先でスケッチしています。そのスケッチ画に神戸と地名をメモしているのです。約 30 年後この地で生まれた星野さんが、重吉の詩を人生の心の支えとし、天国の重吉に向って、お礼の手紙を書くなんて、重吉が予測できるわけはありません。しかし目に見えないところで八木重吉と星野富弘さんはつながっていたのですね。

★YO-EN さんのライブ活動続く

八木重吉の詩が好きで、しばしば八木重吉の詩に絞ったライブを開いている YO-EN さんが、3 月 16 日（土）には、町田駅近くにある、純手打ちうどんのお店「町田タロー庵」でライブを開き、近くでお菓子のお店（茶の花忌には重吉の詩を入れた「麦の里」を提供）を開いている杉浦信男さんも来てくださったそうです。

6 月 2 日（日）には、千代田区九段にあるアルカデイア市ヶ谷で日本の詩祭 2024 が開催され、今年の H 氏賞授賞式後のアトラクションに招かれ、歌のゲストとして八木重吉楽曲のライブ歌唱をしました。八木重吉の研究家でもある郷原宏さんが現代詩人会の会長ですが、前会長が八木幹夫さんでした。詩祭は詩壇の新人賞である H 氏賞とベテランの功労賞である現代詩人賞、両賞の主催団体である現代詩人会が年に一回開催するお祭りです。全国から集まった詩人の皆様に、YO-EN さんの歌唱を通してあらためて重吉の詩が紹介されました。11 曲の重吉の詩が歌われました。

★今高義也氏、八木重吉が所有していた新約聖書の研究を進める。



最近まで研究をする人がいなかった、重吉が使用した新約聖書の研究、具体的に言えば重吉の聖書への書き込みの研究が、仙台の研究家である今高義也氏が始めて下さり、少しずつ『福音と世界』（新教出版社）に連載中です。新約聖書を熟読した重吉の聖書には、書き込みがびっしりあり、そのメモから、重吉の信仰や詩に影響を与えた重吉の内面を、少しでも深く読み取ろうと丹念に研究されています。期待したいと思います。

★ 重吉ゆかりの柏市にある東葛飾高校 100 周年に関連して

八木重吉は、柏の東葛飾高等学校（当時は旧制中学）創立 2 年目の大正 14 年に英語教師として赴任しましたが、今年で 100 年になり、来年発行の 100 周年記念誌に、私が寄稿した以下の文章が掲載される予定です。

東葛 100 年の歴史と詩人八木重吉

小林正継

八木重吉という詩人を好きになった時、私は、彼が母校東葛飾高校（以下東葛）とも縁が深い詩人である事を知りました。。母校東葛が旧制中学として大正 13 年に開校した翌 14 年、白亜の殿堂（ギリシャのパルテノン神殿のような建物）を玄関に持つモダンな校舎が完成し、この年に八木重吉は赴任して来ました。肺結核になったためわずか 1 年余りの柏滞在でしたが、多くの人に共通して愛される詩を多く生み出し詩人としての最盛期であり、8 月には処女詩集『秋の瞳』を出版しました。駅に続く流山街道沿いにあった浅野書店に詩集は並べられ、重吉の授業を受けた 1，2 回生の何人かは詩集を買い求め長らく保存していました。

その後、戦前は昭和 17 年に山雅房から八木重吉詩集が一度刊行されただけでしたが、重吉未亡人が戦後歌人吉野秀雄と再婚したことから、小林秀雄の目に触れたことや吉野の尽力で昭和 33 年には定本『八木重吉詩集』が刊行され、愛好者が増え始めました。残念ながら柏では、重吉との関係は戦後の昭和 40 年頃までは、話題にされませんでした。しかし東葛高校創立 40 周年誌に、かつて八木重吉が教えていたという文章を、館野晃（作

家としては伊藤晃、東葛の卒業生であり教師として勤務もした）が紹介し、50 周年誌にも再掲されました。この館野の掲載をもとに、千葉県の郷土文学の紹介書にも載り始めました。

やがてモダンだった校舎も 60 年近くの歳月を経て老朽化し、昭和 58 年、この校舎を数年後に取り壊して新築する話が出てきました。その時、歴史ある校舎を保存する運動が起き始め、柏のタウン誌「おもしろ倶楽部」は、八木重吉と東葛の関係に注目し、重吉が教えた由緒ある校舎だとして保存を訴えました。また昭和 60 年 1 月号では、神奈川県の川尻小学校にある詩碑「飯」の写真を掲載して、「八木重吉の詩碑を柏に！」と訴えました。

この取り上げを機に、この年の 2 月、私を含め 4 人の愛好者（3 人は東葛卒業生）が一同に会し「八木重吉の詩を愛好する会」を結成しました。最初の主な活動は八木重吉の柏滞在中の足跡調査と詩碑建立であり、賛同して集まった愛好会員の努力でその年の内に実現にこぎつけました。昭和 60 年 10 月 26 日に詩碑「原っぱ」が東葛高校に建立され、11 月 4 日に除幕式と建立記念誌の配布がありました。これらの活動のために、まだ生存していた重吉の教え子たちを含め東葛同窓会（当時の会長は染谷誠）の多大な協力がありました。

この活動の影響もあってか校舎の取り壊しはしばらく延長され、部活動の部屋として活用され続けました。昭和 63 年、老朽化した校舎の隣にセミナーハウスと同窓会館が一つになった建物が出来た時には、「秋瞳館」という名前が付けられました。またいよいよ校舎の解体が決まった時、玄関部分を保存しモニュメントの一部として活用することになり、平成 7 年そのモニュメントが美しく完成しました。以後「パルテノン」として生徒達に愛され続けて来ています。（玄関の柱がギリシャ風の柱なのです。）

また昭和 60 年の、詩碑「原っぱ」建立後、柏市関係の本や雑誌に取り上げられ、詩碑の存在と重吉の詩の魅力が知られて、平成 27（2015 年）10 月には、東葛高校 90 周年の同窓会の記念行事として、八木重吉の詩で構成された朗読劇「いっぽんのみち」が麗澤朗読劇グループによって上演されました。私は幸運にもこれを見る機会に恵まれました。詩碑「原っぱ」は 6 号線に面しているので、道行く人に自然な形で見られています。

★2024 年の茶の花忌の実施について（愛好会主催の新しい内容で開催）

昨年の茶の花忌後、継続の難しさの問題が表面化し、今年は、新しい形でやってみることになりました。その内容をお伝えしますので、協力をお願いします。主催は生家ではなく愛好会です。

コンセプトは「愛好者たちでつくる茶の花忌」です。一応の運営責任は、愛好会の責任者である私（小林）が持ちますが、参加者同士の助け合いや交流も含めて、愛好者全員で協力して行う茶の花忌です。大掛かりな舞台やテントは設定しないで、しかし楽しく自由な雰囲気で過ごすことを目指します。雨天中止です。心配な方は小林（09061674553）へ問い合わせてください。

すでに中心となる愛好者仲間で最低限必要な準備活動をスタートしています。私を含めて８名ほどの仲間が協力して準備しています。もし加わってくれる人がいれば小林まで連絡をください。当日も準備のために愛好会スタッフは生家に 10 時頃集合予定でいます。

参加者全員が最初から最後まで同じ場所で、企画された一連のプログラムを体験する従来の形が変わります。大掛かりにならない複数の企画を分担して実施し、参加者は、自由に選んであるいは積極的にそれに協力して活動を楽しみます。時間の流れに沿って当日の内容を説明します。

当日（10 月 26 日）の日程

準備（１０：００～）この段階から協力してもらえる人は是非来てください。

１　分担場所に机やイスを運び、活動内容の表示をするなど、最低限の必要な準備をします。

２　各分担の責任者をあらかじめ決めてあるので、自分の分担場所がスムーズに活動できるように、必要な器材や資料を用意します。お墓の花も愛好会スタッフが飾ります。

活動日程（１２：３０～１５：３０）と概要

○１２：３０～１３：００　最初の受付（愛好会スタッフ全員で）

受付簿（複数置いて複数で受付）に記入した後、今回の実施内容が分かるチラシ（案内図）を配布しながら今回のやり方を説明し、しばらく参加者に読んでもらい理解してもらいます。

例年生家の当主に挨拶に行きたい方がいると思いますが、今年は挨拶も祝儀等も遠慮してもらいます。愛好会主催ですので、受付での一般的な挨拶だけです。これも従来と違う点です。

○１３：００～１３：３０　墓前礼拝（讃美歌、祈り、感話）ここだけ全員そろって行います。

小林が進行します。

○１３：３０～１５；３０　６つの企画を用意するので、自由に参加して活動します。できるだけ時間をずらしてあるので複数参加もできます。

★　１３：３０以後に遅れて来た人の受付は随時（小林担当）

受付簿に記入、案内図を配布し、活動の仕方を説明して好きな場所へ移動してもらう。

６つの企画ごとの詳細内容

１）　近所の重吉関係史跡散策（神林さん担当、岡）

１時間ぐらいかけて近くの重吉関係の神社仏閣史跡等を巡ってくる。散策資料配布。

１３：４０～１４：３０

２）　重吉詩のライブ演奏（ヨーエンさん・十松さん担当）曲目一覧配布

２０分のライブを２回実施　１３：４０～１４：００　　１４：４０～１５：００

３）　詩の朗読会（桑原、佐藤ｲﾂ子〉）ライブと時間ずらしたので互いに協力可能

５分位の時間単位で準備してきた詩を読み上げる。

その後参加者で１５分位自由に感想を言い合う。詩のチラシ配布（チラシ作成は伊藤）

１４：１０～１４：３０　　１５；１０～１５：３０

４）　本や写真、絵葉書、CD 等の展示と頒布（伊藤、小林　）

展示し、欲しい人には頒布（販売）する。無料で提供できる物も用意する予定。

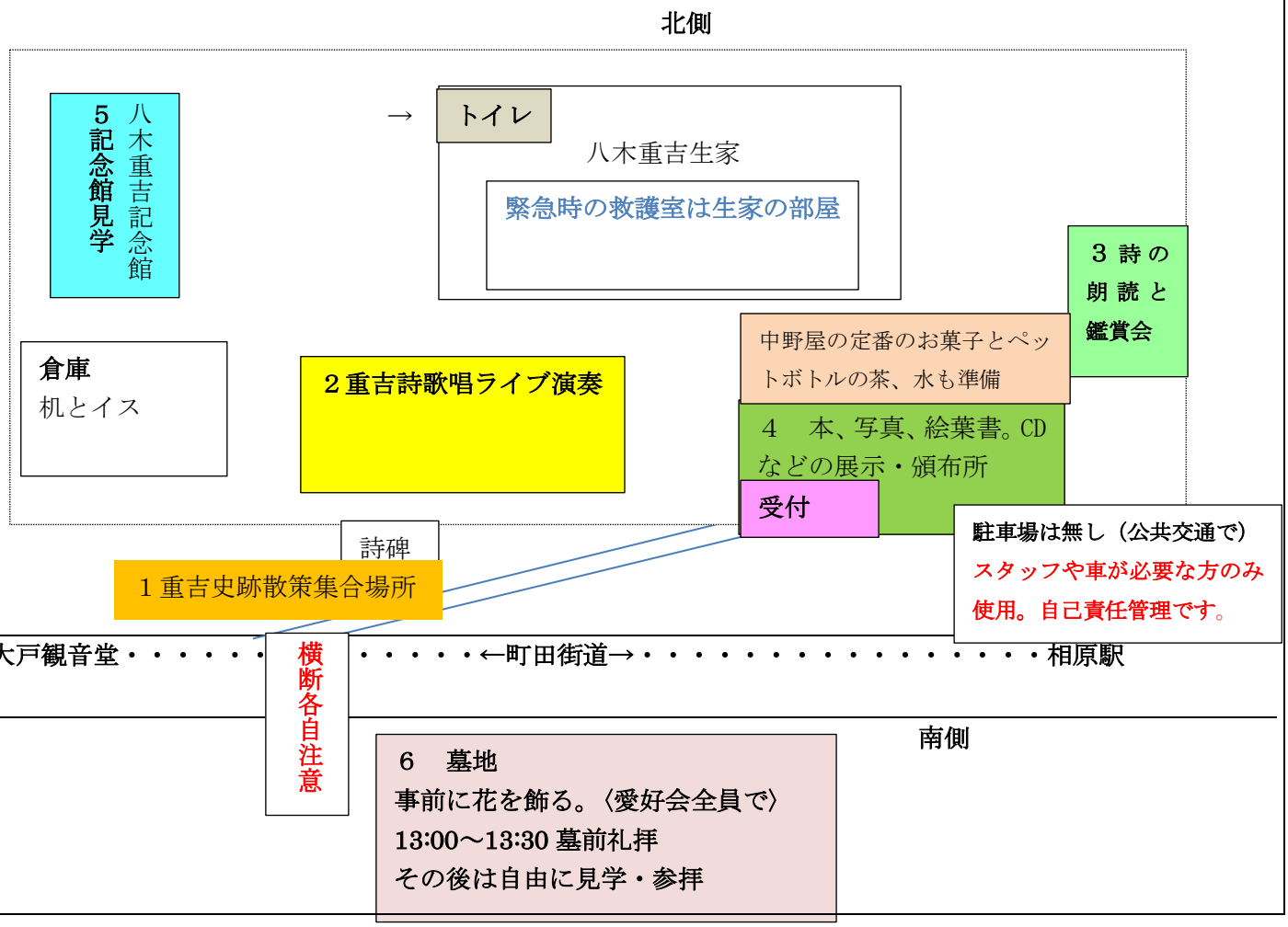
１３：３０～１５：３０　随時

５）　記念館見学。（池田、津原　）

各自随時見学。担当者が時々見回りますので、交流を楽しんでもらえたらよいと思います。

６）　墓の管理（太田他）

参加者が自由に墓参り。鎌倉街道を横断するので注意して見る。

○　茶の花忌終了後、例年スタッフ数人が例年橋本駅で談話しています。希望者は加わる事が出来るので適宜スタッフにお知らせください。

活動場所案内図（受付で配布予定）